



# パトリックの カミングアウト 大作戦

今週の  
カミング  
アウト



ロバート・スパティ

## NYから来た親友が語る HIV感染2年目の壁

パトがNYに住んでいた頃の親友、ロブ。95年2月1日号ではHIV感染のショックから立ち直った直後の彼を紹介したのだが……

30歳、NY生まれ。クラブDJであり、音楽プロデューサー兼リミキサー。かつてパトリックがNY時代に同居していた旧友である。94年1月、HIV陽性であることが判明。同年12月、NYを訪れたパトと「HIVとともに生きること」についてじっくり話し合った。その様子はこの連載の95年2月1日号で紹介した。そして95年12月1日、パトと東谷しげるが企画した世界エイズデーのイベントでロブをつとめるために初来日。パトの部屋に1週間ほど滞在し、この1年間での心境の変化などについて語り合った。

はよくある、通り一遍の悲しみっていうのかな、つまり「ロブ、お気の毒だね」的な目で僕を見るか、声をかけてきたよ」

ロブ「それってどういう感じがした？」

ロブ「多くの人にとって、エイズはいまだに死を意味するみたい。だから僕に対してはやさしくしようと思うのが、必要以上に関わろうとしてくる。おかげで僕はDJのロブ、音楽プロデューサーのロブ、じゃなくてHIVのロブ」になってしまったような錯覚に陥ったよ

### 自らの破滅的行動について 理解できるようにした

パト「僕も、HIVのパトリック」としてだけ見られることはあるよ。でも、僕はあまり気にしないなというか、DJとか、ゲイ、ガイズと同じようにHIVも僕の特徴の一つだと思ってるから。現に僕は、HIVであることを利用して

こういう連載とか、仕事にまでしちゃってるからね」

ロブ「僕はまだそこまで開き直れないからね。僕が彼らに望むのは、リラックスして、親しげな様子で積極的に話しかけてほしい、そして僕に何を言ってもいいのかわからないだけの知識を持ってほしいってことだね。僕は明日死ぬわけでもないし、普段は仕事が忙しくてHIVのことは忘れてるんだから、いちいち思い出さないでほしいよ。HIVについてじっくり考えたり、話したりする機会は友達と持つようにしてるし、セラピーやカウンセリングも受けてるしね」

パト「僕は友達や仕事の仲間から得られる以上のものをカウンセリングから得られるとは思ってないから、一度もその必要性を感じたことがないの。だから、僕はどうしてロブが赤の他人に助けを求めに行くのかわからないんだけど」



いまNYのコギャルの間で大流行のサインがこれ。「だから何なの？」という意味らしい。ロブは他人から無神経な同情的態度を受けるたびに、心の中でこのサインを送っているという

僕は去年の12月1日に泉谷しげるさんたちといっしょに「レッツゴーカミングアウト」というイベントを開いた。第一部は泉谷さん中心のライブ、第二部は僕中心のクラブナイトだったんだけど、僕はロブ（ロバートのことね）といっしょにDJをしたかったんで、彼をNYから呼んだんだ。僕とロブがNYでいっしょに暮らしていた時、僕らの共通の友達が多くは日本人だったから、彼は「日本に行きたいよ」って言ってたんだ。パトリック「94年の12月にNYで会った時のキミは、HIV陽性タイプだと知ってちょうど1年たったところで、ショックからなんとか立ち直ったばかり」って言うってたよね。いまはどう？」

ロブ「多くの痛みは消え去ったかな……。HIVはもう僕の一部分になったよ」

パト「異物としての存在感はやわらいで、まるで身体の中の一部として受け入れられたってこと？」

ロブ「怒りを与える？」

ロブ「僕が怒るのはウイルスが自分の身体の中にいるからじゃないよ。怒りは僕がHIVに対する差別について見たり聞いたりした時に、そういうことをする無知な人間に対して湧き起こってくるんだ」

パト「HIVって、その人の服や話し方、行動なんかでわかることじゃないでしょ。ロブがHIV陽性タイプだと知った上で何か言われたりしたことがあるの？」

ロブ「1年前、SPA!にキミと僕の対談が載ったとき、NY在住の日本人の友達はその記事を読んでいてね……。彼ら

ロブ「僕が助けを必要としたのは、HIVのことだけじゃないんだ。僕はここ数年の間に、ものすごく破滅的に遊ぶ癖がついてしまってたね。パーティーとかでムチヤクチャやったり、一晩中酒を飲み続けたり……。そんな自分を変えるには、友達からの助けだけじゃ足りないと思ってカウンセリングを受け始めたんだ」

パト「成果はあった？」

ロブ「最初に参加したカウンセリングのグループは最悪だったけど、HIV陽性タイプの何人かの連中と話し合ったりしたんだけど、遅刻するな、とか、もつと心を開いて自分のことを語れ、とか、いろいろ強制されてね。それが逆にストレスになっちゃって……。でも、いま参加しているグループでは非常にうまくいってるよ。原因と結果の関係が見えるようになったというかな。たとえば、一晩中酒を飲んだとしたら、昔は「なんで僕はこんなことをしてるんだ」っていつも自問自答してたけど、僕は酒で、この前のあの出来事を感じたストレスをいま解消しようとしているんだ」

パト「自分の行き過ぎた行動について後悔しないで理解できるようにしたんだね。暗いトンネルから抜け出たみたい」

ロブ「まさにその通り！ 94年に僕たちが話した時は、僕はトンネルのど真ん中にいたけど、いまは一筋の光が見えるって感じだね。出口は近いよ。実はいまの僕は絶好調なんだ。レコーディングスタジオの仕事もDJの仕事もうまくいってるしね。これからの人生をますます向上させるために、努力し続けるよ」

ロブ「僕が助けを必要としたのは、HIVのことだけじゃないんだ。僕はここ数年の間に、ものすごく破滅的に遊ぶ癖がついてしまってたね。パーティーとかでムチヤクチャやったり、一晩中酒を飲み続けたり……。そんな自分を変えるには、友達からの助けだけじゃ足りないと思ってカウンセリングを受け始めたんだ」

### パトちゃん日記

12月19日

ロブに東京案内するためにいろいろ考えた結果、ぼくが大嫌いな3大レジャー「カラオケ」「競馬」「パチンコ」のひとつ「パチンコ」に行くことにした。やってみないと嫌いだ、って言うのも何だしね。やり方も知らなかったからスタッフの人に手とり足とり教えてもらった。スタッフの人は親切でとっても良かったけど、なんでこんなもの面白いのかわからない。ただ玉が飛んでる台とオナニーしてるだけじゃん。友達も作れないし。つまんなーい。

たぶん最初で最後のパチンコをする僕

パトリックDJ情報 ● 毎週月曜日LOOPon246

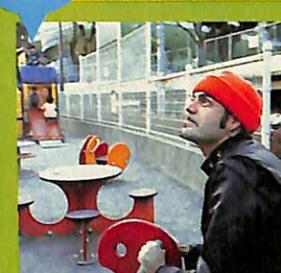
「いまはもうHIVは僕の一部分になったよ」

今年もよろしく！ メッセージのあて先 ● 105-70 (株)扶桑社 週刊SPA!編集部「パトリック係」まで



# パトリックの カミングアウト 大作戦!

今週の  
カミング  
アウト



## イジメられ続けた10年

年末、部屋の大掃除をしていたパトリックは、偶然、子どもの頃の写真の束を発見した。家族といっしょに微笑む十数年前の自分。思わずノスタルジックな感慨に耽ってしまったが、その映像は彼に苦い経験をも思い出させた。パトリックは小学校低学年から高校1年まで、10年にわたってイジメられ続けてきたのだ。「バカノ」「デッコノ」「オカマノ」と罵られ、殴られた。一方、日本では年末に中学生が立て続けに自殺、イジメがより深刻化していることにも興味を持ったパトリック。今回は自分が受けたイジメ体験について語る。

# ボクがイジメられていた頃のバト……

昨年の暮れに立て続けに発生した、イジメによる中学生の自殺。深刻化する日本のイジメが気になったパトリックは、自らのイジメ体験を語った

今の超明るい僕からは想像できないかもしれないけど、子どもの頃ははずかしいイジメられたんだよ。

## 「グロニク・ハイパー・アクティブ」

僕は生まれつきこの体質を持った子どもだった。一種の精神病だと思っただけで、日本語に直訳すれば「慢性超活病」だね。赤いシャツ着た僕の写真、すっごいでしょ、目が異常にキラキラしてて。学校で机に向かってても、体が常にフニャフニャ動いちゃって、全然じっとしてられないわけ。

だから、勉強なんか手につかなくて。小学校2年のとき、落第しちゃって、「バカバカバカノ」って言われて、殴られたりもしたよ。先生たちもひどくてさあ。「バカ」って書いてある帽子を僕にかぶせて教室の隅に立たせたり、殴ったり、あるいは校庭を何周も走らせたりね。つまり、僕をヘトヘトに疲れさせれば落ち着

くだらうって思ってたみたい。それでも僕は落ち着かなかったけど。

そして小学4年くらいからはまた新しいイジメが始まった。「デッコ」。成長するにしたがって、僕は口が閉まらないほどすっごいデッコになっていった。「ハイパー」とか「ミスター・ティースノ」、つまり「歯ノ」とか呼ばれて。で、矯正のワイヤーを付けたら、今度は「あんた、そのワイヤーでラジオ聞こえる?」とかバカにされてね。僕のデッコは重症だったから、ワイヤーで顔全体を固定してたからね。一度、顔を殴られて、ワイヤーが歯ぐきに食い込んで、血だらけになったこともあるよ……。

中学校に入ったら、「落ち着かない病」は治って、勉強も一気になれるようになったし、「ワイヤー」をする子も増えたんで、それに対するイジメはなくなった。でもね……今度は「オカマっぽい」って

たよ。例えば、「ハイパーノ」って言われたら、「自分の歯並びを見てみるよ」って言い返した。すると喧嘩になって必ず僕は負けちゃうんだけどね。でもそうやって何度も「反抗」していると、イジメてくるヤツの数は減っていったよ。どうして戦えたのかって言えば、僕は「ガマン」するのがイヤだったし、助けられる人もいたからかな。特にすばらしいアドバイスしてくれたってわけじ

やないんだけど、僕の話聞いてくれる人が何人かいたんだ。スイミングコーチやオーケストラの先生、近所のオバサン。カウンセラーに相談したこともあったしね。別にその人がイジメを解決してくれなくてもいいの。ただ自分の話を聞いてくれるだけでホッとするんだよ。

イジメを受けていることを誰にも相談できない気持ちはもちろんわかるよ。殴られたこと、ナイフで切られたこと、そ

ことでのイジメが始まって。そのピークは高校1年のとき。「バツツイ」って女のこの名前と呼ばれて、殴られたり、体育で着替えるときにパンツを破られたり。知らない男たちから「やらせてくれるんだろ?」って電話がかかってきたりね。誰かがスパーマーケットのトイレとかにイタズラ書きしたんだよ、「僕はパトリック。ホモヲチ探しますヨ」って。最後にはポケットナイフでお腹を切られたこともあるよ。ほんのカスリ傷だったけど、その相手、ジョニーは「先生に言ったら殺すからな」って脅かした。でもね……僕は事件のことを手紙に書いて校長先生に送ったんだ。僕の名前は書かずに。そしたらジョニーは停学になってさあ。もう復讐が怖くて怖くて毎日震えてたけど、その後は何もなかった。逆に、僕の手紙でジョニーが停学になったことが学校中に知れ渡ったみたいで、「パトリ

ックをイジメるとマズイ」ってみんな思ってたんだろね、もう誰も「バツツイ」って呼ばなくなって、僕に対するイジメは終わったんだ。

## ただ話を聞いてくれる、それだけで救われる

こう書くと、あっさりイジメが終わったように思えるだろうけど、僕はすっごい苦しんできたよ。「何で僕だけ……」って。中学3年のとき、イジメのターゲットを他へ向けようと、僕よりもっとオカマっぽい子をイジメたこともあるよ。そいつの家に電話してお母さんに「お前の息子がトイレで知らない男にフェラチオしてる見たゾ」とかウソついたりね。これはちょっとズルイやり方だったかもしれないけど、僕は基本的にはイジメに対して戦ってきたと思う。校長に手紙を出したのも戦いだし、小学生の頃は、

してセクシャリテイのこと——僕もお母さんにすら言えないことはめちゃくちゃいっぱいあったから（その理由は来週書く）。でも、本気で探せば、相談できる場所人は必ず見つかると思うんだ。いま、日本の子どもたちに言いたいことはそれ。イジメに限らず、受験とか家庭の問題とか、誰かとコミュニケーションをとるように努力してほしいね。「助けてノ」って叫べば、助けてくれない人はいない。来週号ではここ10年くらい、ほとんどまともに口をきいていない、僕のお母さんについて話してみようと思う。

## パトちゃん日記

1月10日

GAY!! おかまノ女っぽいノ女装って思ってる人いっぱいいるだろうけど、違うんだなこれが。僕はスカートはいたりするけど、決して「女」に見られたいからじゃない。僕の体のバランスにロングスカートが似合うから、着るのだ。髪に白髪があるからマスカラで黒くしたりするけど、絶対メイクはしないもんね。友人のカメラマンの作品撮りのために女装をした。たぶんこれが最初で最後のパトちゃんの女形の姿でしょう。

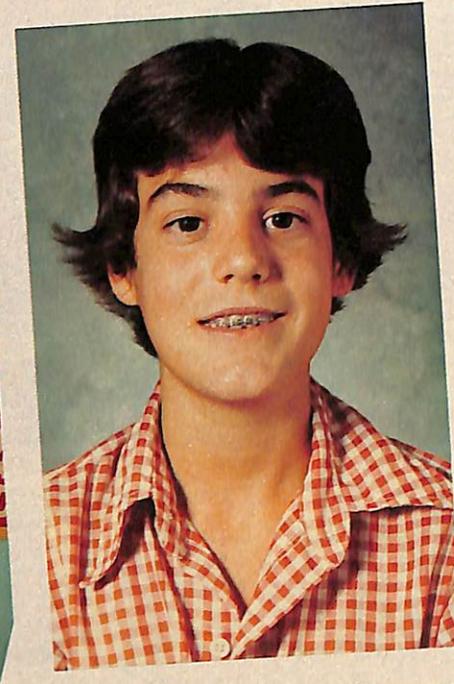


「僕の前世は殿様の大事なひとり娘だった」ってのが撮影のコンセプト



（左）7歳の頃の僕。異常に落ち着かなくて、「ハイパー」と呼ばれていた

小学校時代は精神安定剤を飲んでいたので糖分は一切禁止。他のコノデザートを見ないよう」と給食は一人で別の部屋で食べていた



（左）14歳の頃。吹奏楽部に入ってオーボエを吹いていた。「バツツイ」と呼ばれていた時期

（上）15歳。歯の矯正をしていたことでは、ものすごくイジメられた。そしてこの後は「オカマ」。イジメの材料には事欠かなかった



別に家族じゃなくてもいいから、誰か話をして!



# パトリックの カミングアウト 大作戦!

今週の  
カミング  
アウト



パトリックのお母さん

年末、部屋の掃除をしていたパトリックは子どもの頃の写真を発見。その映像は彼に「イジメられ続けた少年時代」を思い出させた……先週号でパトリックはその苦い思い出について語ったわけだが、イジメを克服した彼には新たな問題が待ち構えていた。母親との断絶である。断絶を繰り返した未、高校を卒業すると母親のもとを去ったパトリック。以来、電話では時々話すものの、母親とは「他人の関係」を続けている。いったいなぜ? 30歳を迎え、ちよびりオトナになったパトリックは、いま、2人の間の「溝」を埋めようとしている……

**HIVのことを今も伝えられない母親との関係**

年末に見つけた昔の写真をきっかけに、自らの過去について語りはじめたパトリック。今回はイジメを克服した後訪れた母親との決別を語る

でもね、僕とお母さんの間に決定的にヒビが入ったのは10年前なんだ。お父さんと一緒に住み、東京で一人暮らしした後、アメリカに帰ることになったのね。で、久しぶりにお母さんにも会いたいと思って連絡したら、「今は会えません。あなたのライフスタイルを理解できないから」って手紙が来てね。お母さんは僕の僕とは完璧に縁を切りたがってるって感じたよ。だから僕も手紙を書いた。

「僕は僕の人生を続けたい。あなたは僕を自分の息子として見たくないようだから、僕もあなたの息子だと思わないようにします」って。それから5年くらいたった時に、従兄弟の結婚式でお母さんと会ったんだけど、「元気?」「うん、元気」

と、絶対に部屋から出してもらえないようになった。反抗すると、外出禁止の期間がどんどん増えていくの。15歳から16歳にかけての8か月間、僕はトイレと食事、学校、教会、それ以外は一切部屋から出られなかったんだ。すごいでしょ、8か月間だよ。もう徹底的なんだ。

お母さんとそのダンナの何が一番嫌だったかと言えば、「僕の気持ちを理解しようとしなかったこと」かな。僕のやりたいことをサポートしてくれなかった。それに、「新しいお父さん」は受け入れられなかったよね……。お母さんの側からすれば、推測だけど、やっぱり僕のセクシヤリテイが気に入らなかつたんだろかね。

で、結局、ある日お母さんから言われたんだ。「あなたが続けたい人生はここで続けられないのよ。続けたいんだから他でやりなさい」って。僕も「こんな家、最低」って思ってたから、家を出

あと、その頃、僕はダンススクールに通ってたんだけど、突然「もうお金は出しませんって言われて。その理由は、「勉強して大学へ行きなさい」と、ダンススクールには「ああいうオカマがいっぱいるから」。当時、僕は自分のセクシヤリテイが「一般の人とはちよつと違うな」ってことはわかってはいたけど、男の人に今ほど興味があったわけじゃない。純粹に「将来はダンスをやりたい」と思ってたから、「自分の力で行く」って反抗したよね。お母さんとしては僕がゲイっぽく見えたから、その世界から遠ざけようとしたのかもかもしれないけどね。

僕とお母さんの関係が悪くなっていた原因には、「新しいお父さん」もある。お母さんは僕が15歳の時に再婚したんだけど、そのダンナさんのせいで家の中のいろんな「やり方」が変わっちゃったわけよ。たとえば、僕が何か悪いことをす

まず写真を見られる? 14歳の時の僕と弟、そしてお母さん。お父さんがいないのは……11歳のときに両親が離婚して、お父さんが出ていったからなんだ。年末に見つけた写真の束の中には、お母さんが写ってるものは一枚もなかった。仲悪いんだから当然だけどさ。だからアメリカのお母さんに手紙を書いて、わざわざ送ってもらったのが、コレなんだ。お母さんとの間にヒビが入り始めたのは高校に入った頃かな。それまではごく可愛がられたんだけどね。きっかけはいろいろあるけど、今でもよく覚えてるのはお母さんはよく家でパーティを開いてて、その中にゲイの人もいたの。パーティの最中、お母さんはキヤアキヤア仲良く話してたんだけど、その人が帰った途端に「あのオカマ、大嫌い!」って言うの。「表と裏」を見てね、何が、すっごく嫌な気持ちになったよ。

——そんな会話だけ。お母さんはすく変わってた。全然温かみがなくてね、もう他人なんだって感じたよ。

家を出てからお母さんと会ったのはその一回だけかな。でもね、1年くらい前から僕はお母さんにちよこちよこ電話するようにになったの。やっぱり……お母さんだしさ。もちろん、愛してはいないよ。でもお母さんのお

限りでは僕らの関係は良くなってると思ふよ。

あと、僕がゲイだってことは話したことないけど、お母さんはそれは知ってると思うからいいんだよ。でもHIVのこととは話しておきたいんだ。それは電話じゃなく直接会ってね。お父さんを含めてお父さん側の親戚、弟はHIVのことを知ってるんだけど、お母さん側は誰も知

らないんだよね。

お母さんからこの写真を送ってもらった時に言われたの、「雑誌がきたら送ってね」って。どうしようかと思ってさ。だって、このページにはHIVって書いてあるでしょ。やっぱりバレちゃうよね……。とりあえずSPAIを送って、電話で向こうの反応を見てみようかな……。いや、でも、いつかは会いに行つてはつきり言うよ。今度、その「告白の旅」の様子を記事にできたらいいな……。

## パトちゃん日記

1月10日

僕の息子のビケット。去勢手術をしちゃったからニューハーフです。取材でペットショップを取り上げた時、僕の幅広い動物知識に驚いた。ペットショップの社長さんが、なんと血統書付きのアピシニオンを思わず僕に贈呈してしまったのだ。僕は今ビケを、爪を使つての世界初「猫DJ」にしようかと特訓している。まずは体でビートをつかむことがレッスンの1。だから毎週月曜日のLOOPのダンスフロアでビケは跳びはねてる。みんなビケを踏むなよ。



DJレッスンの食前、こっそりお酒飲めてんのは知ってるぞ。10年早い!



パトリックはお父さんが20歳、お母さんが何と18歳の時に生まれ、お母さんは大きなお腹を抱えて高校へ通つたのださうだ。写真左がパト、右側は5歳年下の弟

「あなたが続けたい人生はママでは続けられないのよ」



# パトリックの カミングアウト 大作戦!

今週の  
カミング  
アウト



**ロバート・ジェファーソン**  
1960年アメリカ生まれの放送ジャーナリスト。ポルトガル、トルコなどの勤務を経て、82年に米軍のFENの仕事で来日。パトリックがファンだった「ジャズ・スペクトラム」などの番組を担当する。除隊後も、日本に残りABCニュースなどの日本特派員や、TBSテレビのニュースのバイリンガル放送のアナウンサー、各種ナレーターとして活躍中。アメリカにいた頃はゲイという文化があるということを知らなかったが、20歳の頃、仕事で訪れたポルトガルのアソレイ諸島で自分がゲイであることを自覚し、カミングアウト。

**ガイジンでゲイの2人が  
日本に住みたがる理由**  
昔の写真を見つかけ「自分の過去を振り返り始めたパト。今回は、母親との決別の後、父親のいる日本にやってきた16歳の頃の親友を訪ねた

トが惚れ込んだのも納得だ。  
**日本人はガイジンを  
別の引き出しに入れる**

パ「ロバートはずっと日本で仕事をして  
いるんだけど、仕事先ではゲイだってこ  
とはカミングアウトしてないの？」

ロ「特には言っていないけど知ってはい  
ないよ。日本って、ガイジンなら、スー  
ツさえ着て、ちゃんと仕事をしていれ  
ばと見えOKってところがあるね。ど  
うせいつかは帰る人だからって思っ  
てるんじゃないかな」

パ「ガイジンだからってことで別の引き  
出しに入れちゃうんだよね」  
ロ「でも日本人だとゲイだって公表する  
と問題があるかもしれないね。日本人  
士ってプライベートなことまで気にし

前はパトリックがお母さんの元を離  
れて日本にやってきた時の話だったが、  
今回は日本でのよき相談相手になってく  
れたというロバート・ジェファーソンさ  
んが当時のパトの様子を語ってくれた。  
ロバートさんはテレビやラジオで活躍す  
る放送ジャーナリスト。そして日本人の  
男のことが大好きなゲイなのだ。彼が日本  
で暮らすようになって14年になる。  
パトリック「もともとは、FENでロバ  
ートが担当していたジャズの番組を聴い  
ていて、なんて印象深い声なんだろうっ  
て思ったことがきっかけなの。それで友  
だちのコネを使ってFENのロバートに  
会いに行っただ。確か僕が16歳で、横

田基地で働くお父さんと一緒に暮らして  
た頃だね」  
ロバート「その時は挨拶ぐらいたったね」  
パ「でも、その時に『あー、この人もゲ  
イだな』ってピンと来たよ。目つきで  
わかるんだよね」  
その後、2人は新宿二丁目のゲイバー  
で偶然再会する。  
パ「あ、やっぱり！って感じだった。そ  
れからよく電話をして、お互いのボーイ  
フレンドの悩みを言いあうようになった」  
SPA「その頃のバトって、どんな感  
じでしたか？」  
ロ「めちゃ可愛い男のFEN、若者のエネ  
ルギが溢れていた。でもこれから何を



取材はロバート氏の自宅で行ったのだが、その部屋のキレイなこと！一人暮らしの男性の部屋でこんなにキチンとしているのは初めて。同じガイジンのパトとは対照的？

うから」  
パ「ガイジンであることやゲイであるこ  
とで生きづらかったことある？」  
ロ「直接というのではないけど、ストレー  
トの人って、どうしてゲイの性生活を聞  
きたがるんだろう？自分たちは『奥さ  
んと週何回セックスしますか？』なんて  
聞かないでしょ？」  
パ「いきなり『どこの国から来たんです  
か？』って聞かれるのもイヤだな。日本  
人同士なら、名前も聞かないで、どこの  
出身ですか、なんて聞かないはずだよ。  
ガイジンだからって、いきなり国を聞く  
のはマナー違反だよ」  
ロ「僕なんて、19歳でアメリカを離れて  
いて、もう14年も日本にいますから、  
生まれた国なんて関係ないのね」  
パ「ところで、どうしてロバートはずっ  
と日本にいるの？」

ロ「日本人じゃないから日本にいるんだ  
よ！自分が日本人だったら日本にいる  
のって大変だと思う。自由な暮らしがで  
きないんだから。きっと他の国に逃げた  
んじゃないかな」  
パ「あと日本人の男のことが好きだからで  
しょ！僕らライスクイーンだから」  
SPA「なにそれ？」  
パ「ゲイ用語で、東洋人を好きな人をラ  
イスクイーンっていうの。お米を食べる  
人が好きってこと。あと黒人が好きな  
人はチヨコレトクイーン、白人が好き  
な人はスノークイーン。田舎っぽい人が  
好きなのはボテトクイーンっていうの」  
ロ「黒人と東洋人のカップルのことをタ  
イガーカップル、白人と東洋人だとバナ

ナスプリット、黒人と白人だと……」  
パ「オレオカップル！ロバートは僕と  
趣味が似ているんだよね。いつも目をウ  
ロウロさせて可愛いコを探してるから。  
だからロバートときあわなかつたんだ。  
きつとふたりで『あのコが可愛い、この  
コが可愛い』って言いあうばかりになっ  
ちゃうからね」  
ガイジンでありゲイであるという二重  
の好奇心にさらされながら日本に住んで  
いる2人の話は、今まで僕らが気づけな  
かったニッポンを教えてくれたのだった。

## パトちゃん日記

1月17日  
「いまだときのキャブって？」とい  
うテーマで日曜の渋谷でTVの収録  
をした。2時間も道路の真ん中でマ  
イク持ってリポートしたんだけど、  
最後にはみんな同じ顔に見えてきた。  
だって茶髪ロングヘアでミニスカ  
ートのロングブーツの女&キムタクヘ  
アでダウンジャケット、携帯TEL  
使用の男ってキャブばかり。気  
持ち悪いくらいバッテリーにはまりす  
ぎ。なんでみんなしてこうなっちゃ  
うの？」



取材中なぜか親子連れに人気があった僕

「日本人じゃないから日本にいるんだよ！」



# パトリックの カミングアウト 大作戦!

今週の  
カミング  
アウト



ロッキー

1947年横浜生まれ。ゲイを中心としたダンサーたちによるミュージックショーの構成、演出、振り付けを手掛ける舞台プロデューサー。新宿の「ギャルソン・バブ」、六本木の「金魚」など、現在5つの人気店のショーを担当。80年代前半のショーバブブームの火付け役であり現在も業界第一入者である。学生時代はバリバリのサッカー選手だったが、大学4年の時に突如、ダンスの魅力に目覚め、すでに決まっていた教職を投げ捨ててこの世界に入る。'84年、ダンサーの仕事を探して「ギャルソン・バブ」を訪れたパトと出会う。

## パトの「日本の父」が語る HIV以前と以降の変化

母親の元を離れ日本の横浜舞地に勤める父親と暮らした後、パトはシブーバブでダンサーとして働きはじめた。今回はその頃の卑劣な人脈を防いだ

どに合わせて、コミカルに踊りまくる。

**ゲイの「社会からはみ出した部分」が「一緒にいて心地良い**

パ「ロッキーさんはゲイのオコたちと20年近く一緒に仕事してるわけだけど、自分はゲイじゃないんだよな？」

ロ「結婚もしたしね。だから、ゲイっていう存在そのものとかゲイたちが何に興味を持っているとか、まあなんて言うか、彼らの**社会からはみ出した部分**が面白かったし、自分も身を置いて心地良かったんだよ。でも、経験はあるんだ」

ロ「もう15年以上前かな。店の外人のお客さん2人に誘われて彼らが泊まっているホテルに遊びに行ったの。僕はまだゲイという存在を知って間もない頃だったし、彼らはゲイじゃないと思っただけだからね」

てくれたよな」

ロ「いい悪いは別にして、その人が楽しもうとしているのを邪魔したくないの」

パ「そう言えば、僕がロッキーさんを助けたことがあった。女のことよ」

ロ「ああ、そうだったよな」  
パ「僕は2人の真ん中に入って、ホント、大変だったんだから。今まで見たことのない悪魔のような女、いや、人間の形をした悪魔。映画の『危険な情事』より危険な状態だったんだから」

ロ「いい、息子を持ってよかったよ」

### パトちゃん日記

1月24日

年末年始のDJスケジュールをこなし、人より遅い正月休みを取った初日。NYの大切な友人のジーン君がエイズで他界したって報せを受けた。彼は前歯が一本抜けて、ちょっとハゲで、けどどいつともニコニコしながらCLUBのダンスフロアで踊り狂ってた人。音楽オタクで僕と音についてよく話したんだ。彼のお葬式には行けないから、僕のDJパーティーのスペースを色紙で送ることにしたのだ。



色紙制作に参加してくれた人ありがとう

パトリックDJ情報●毎週月曜LOOP on246 2/9(金) THE WORLD at PLANET

パトリックへのメッセージのあて先●0105-70 株式会社 週刊SPA!編集部「パトリック係」まで

撮影/高橋清人 撮影協力/新宿「ギャルソン・バブ」



ダンサーはゲイとニューハーフが中心。本物の女性はいない。「昔のゲイは陰」があっただけ今は根っから明るいよ」とロッキー氏

ロ「でもHIVのことと話をした時、ロッキーさんが特別な反応はなかったよな」  
ロ「もちろん悲しかったよ。でも僕が泣いたり騒いだりしたところ現実が動かないからね。その時思ったのは、現実を冷静に受け止めて、僕が手伝える部分はあるだけ手伝わってこと。人はそれぞれ自分で生きていくものだしね」

ロ「でもHIVのことと話をした時、ロッキーさんが特別な反応はなかったよな」  
ロ「もちろん悲しかったよ。でも僕が泣いたり騒いだりしたところ現実が動かないからね。その時思ったのは、現実を冷静に受け止めて、僕が手伝える部分はあるだけ手伝わってこと。人はそれぞれ自分で生きていくものだしね」

パトリックはロッキーさんのことを「日本での父」と表現する。'84年といえ、パトリックは日本で一人暮らしを始めて間もない頃であり、弱冠19歳の「かわいい青年」だ(つたはずだ)。「公私ともに本当にお世話になったの」というパトの言葉は嘘ではないだろう。だが、日本での父は超多忙人間なので、2人が会うのは年に2〜3回。今回はちよっと遅いが新年の挨拶を兼ねた訪問なのである。ロッキーさんは「息子」が連載ページを持っていることも知らないというので、まずはSPAを見てもらうことにした。ロッキー「えっ、パトは子どもの頃もイジメられてたんだ」

ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」  
ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」

ロ「10年前はまだ僕はダンサーも兼ねてやってたんだよな。パトとは何回も一緒にステージに立ったけど、目が合った時ダンスっていいよね」って感じが伝わってきたよ、パトからは」  
ロ「ロッキーさんの演出が面白かったからね。『ツイスト&シャウト』の『シェケナベイビー』って歌詞が、蛙のベイビーに聞こえるからって、アメ横でイクラの叩き売りしてる振り付けたりさ」

ロ「アハハハ……そんなのもやっただよ。でも音楽を聴いて物語を勝手にイメージするってやり方は今も変わってないよ」  
ロ「アハハハ……そんなのもやっただよ。でも音楽を聴いて物語を勝手にイメージするってやり方は今も変わってないよ」

ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」

ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」

ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」

ロ「でもHIVとHIVが通じた、すばらしい行為だったな、って思ったよ。今でも後悔してないし」

「HIVに感染して、随分オトナになったよな」



今週の  
カミング  
アウト



ドリアン助川

1962年東京都生まれ。10代の頃からバンド活動を始める。やがて芝居の役者をめざすが才能が感じられず断念する。その後、放送作家、フリーライターとして帰郷後のカンボジアや東欧の革命などを取材。1990年に「自分にできることは感じたままを叫ぶことだけだ」と思い、「叫ぶ詩人の会」を結成してバンド活動を再開する。3枚のアルバムをリリースする傍ら、阪神・淡路大震災の被災者、骨髄バンク、薬害エイズなどを支援するチャリティ・コンサートを行っている。月刊「PANJA」(小社刊)でエッセイを連載中。

**メッセージを送る側が考  
える「表現とカネと責任」**  
社会的なメッセージを激しいビートに乗せて叫ぶ、話題のバンド「叫ぶ詩人の会」のリーダーとの初対談。難しくない話をするはずが……

撮影/高橋清人 撮影協力/小田急百貨店

パトリックがドリアン助川氏のことを知ったのは、親しい友達から渡された1枚のCDがきっかけだった。その後テレビで偶然目にしたドリアン氏の話に感動し、阪神・淡路大震災被災者救援のチャリティ・イベントに出掛けたのだが……。パトリック「今日はまず、どうして社会問題をストリートに歌うようになったのかを聞きたかったんだけど」

ドリアン「僕は昔、音楽や芝居を志して挫折感を味わったことがあるんです。それでライターをしながら世界の紛争地帯なんかを回っているうちに、自分のただ一つの才能は、『何かを感じる』ことができる。ってことだけなんだと気づいて。じゃあその感じのままを叫ぶことが俺の表現手段じゃないかと思っちゃったわけ」

パ「その伝え方なんだけど、こないだのステージを覗てさあ、なんかワイドショー的ななあと思っただけです」

ド「……っていうと？」

パ「例えば『世界じゅうの子供を抱きしめたい』って歌ってたじゃない？ すこいなあって思う反面、世界のことを昔のフォークソングみたいにダイレクトに説明してるだけじゃないかとも思ったの」

ド「そもそも始まりが、自分自身のために叫ばなきゃ生きていけない、と思っただけのことだからね。だからダイレクトすぎるって言われればそうだよ」

パ「今度4枚目のアルバムを出すんだけど、もしレコード会社に『もっとわかりやすくとか軽い感じで』とか言われたら、その時はどうするつもりでいるの？」

ド「そんなに売れるもんじゃなから言われてないけど(笑い)、僕の中の課題としては、今までは全てを説明して語っていく歌だったのを、今度は何か一つのことを言うだけで伝わるようなものも歌いたいなあと思ってるんです」

パ「僕は多分そっちのほうなんだよね。ただ『ラブ、ラブ』って歌ってても、それを聴いた人が自分で考えて何かを感じてくれたほうがいいって思うんです」

ダイレクトなメッセージでチャリティ・コンサートを行うドリアン氏とDJをしながらHIVについての講演活動が続けるパトリックは、求めるものは同じかもしれないが、考え方や行動のスタンスはだいぶ違っていた。

**どんなに状況が変わっても  
やり続けることが責任!**

パ「ワイドショー的って感じた理由はもうひとつあるんです。不幸な子供がいる。抱きしめたいって叫ぶのなら、目の前に現実にいる一人から抱きしめればいけないじゃないかってこともあるし……。それでCDが売れたら自分はお金儲かるわけじゃない？」

ド「そっか……僕がちよっと違うのは、みんなを抱きしめたいのにできっこない。できることは叫び続けることだけだ。そういう祈りがあの歌なんです……。実際には震災後の神戸にも行ったし、いろんなチャリティもやってるんだけどね」

パ「そうだよ」

ド「でもそこはあんまり声高には言いたくない。それよりもそこで見て感じたことを伝えるのがアーティストとしての僕の役目だと思ってるから。自分のためであると同時に、誰かのためでもある。そこはトータルに見てほしいんだよね」

パ「そこでメッセージ・ソングを歌うってことには当然責任もついてきちゃうと思うんだけど。言葉の責任が。そのへんはどう思いますか？」

ド「それは……(レコード会社や話題性といった)今のような状況がもしなくなってもやり続けていくってことかな。そ



パトの質問の一つひとつ一生命答えてくれたドリアン氏。\*バカバカしい話\*は次の機会までおあずけとなっていました

こで聞かれることだと思っただけです」

パ「僕の場合だったら講演会に行っただけにほんとうに納得してれば僕もコンドームなしでセックスするよ」

つて言う、大抵の人はショック受けるわけ。でももしそれ聞いた人がコンドーム使わないでやっちゃったとしても、僕にはどうすることもできないでしょ。だから僕は講演会はその場限りのことだと思

つてるし、お金のためにする仕事もあるし、DJはDJでやってるし……」

ド「パトちゃんと言ってるのは要するに、僕がステージの上で歌ってることを全部やっちゃって死ぬってことでしょ？」

パ「……極論すれば、そうかなあ」

ド「でもね、パトちゃんの言ってることと、メッセージメーカーとして誕生してしまっただけをやり抜くことっていうの

は、ニュアンスは違うけど両方責任ってことだと思っただけ……。ただ、もっと腕力は欲しいと思っただけ」

パ「それでお金がすく儲かったりしたらどうする？」

ド「いまだに歌だけじゃ食べてないから(笑い)」

パ「そうなの？」

ド「でもおれは一人になっても続けるよ。

本来そういうものだと思うし」

パ「ところでさあ、言ってることはカッコイイのに、ステージの衣装はなんでもんなにかっこ悪いわけ」

ド「それはわかっているんだけど(笑い)」

パ「今度パトちゃんがスタイリングしてあげるわよ」

ド「ほんと? 頼む頼む」

**パトちゃん日記**

2月1日

この半年、3週間おきに髪の色を変えてたけどそろそろ飽きてきた。伸ばそうかなって思ってたんだけど、やっぱりモヒカンにした。日本の電圧に合わないアメリカ製のバリカンをむりやり使用してカットした。ガガガって凄まじい音を出して、バイブレーターのように震えるバリカンを押さえ付けながら。かなり腕の運動になる。自分ではかっこいいと思うんだけど、「セサミストリートのバード」ってつぶやきが聞こえたのは気のせい?



いい髪型アイデアあったら採用してあげます

パトリックDJ情報●毎週月曜LOOP on 246 2/23(金)PRAHA in 新宿

パトリックへのメッセージのあて先●105-70 (株)扶桑社 週刊SPA!編集部「パトリック係」まで

自分のためでも誰かのためでも、いろいろな場の微妙な



隣に座った客とベタベタしはじめたパトに、「うわー、初めて見た」写真に撮りたい、「いいモノ見せていただきました!」と、まるで珍しい動物の尻尾を見るようだった

やないかなー。だって男役と女役に分か

水「そんなに違わないんじ  
分かれてるから……」  
太「同性同士の恋愛のほ  
うが、お互いに尊重でい  
られそうな気がする。刺  
激しあえるっていうか、  
男と女だと役割分担が

パ「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」  
水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

森「これはこれ。別の世界の  
ことだよ」  
水「ゲイの恋愛と、男と女  
の恋愛とで、なんか違うと  
ころってあると思う?」

水「だってアタシは中学生だよ!」  
太「僕の初めては13歳だからね」  
水「うわー、アメリカン!」  
パ「んあ? なんなの、それ!  
(笑い)。じゃあ、こういう雑誌  
に出てくる恋愛を自分のリアル  
・ライフの参考にしようと思っ  
てる?」

### パトちゃん日記

2月7日  
プレイステーションの仕事をすることになり、まず、プレイステーションに慣れさせてください。ってことで本体とソフトが10本送られてきた。今まで僕ってゲームにハマったことないんだけど、これにはやられた。「ジャンピングフラッシュ」が、空高くジャンプしながら敵と戦うのだ。トリップの旅を体験できる映像の中で敵を倒していくのだ。モニターの前で立ち上がってゲームにハマってる僕。最高! だけどクリアできなくてくやしー!

パトリックDJ情報●毎週月曜LOOP on 246

パトリックへのメッセージのあて先●0105-70 (株)扶桑社 週刊SPA!編集部「パトリック係」まで

目に星をちりばめた美少年が、同級生の男の顔を好きになり、告白できなくて悩む。幾多の障害を乗り越え、やがて愛は……。こんなストーリーが中心の美少年系ゲイ・マンガ。それを読んでいるのが女のコであることを知ったパトは、一体どういふつもりなのか確認すべく、読者に集まってもらった。

これ読んで何が面白いの?」  
一同「うーん……」  
水口「カラミ!」  
パ「カラミ? ああ、セックスシーンね。いいじゃない、はつきりしてて(笑)。でも一般のマンガにもカラミはいっぱいあるじゃない? 何が気持ちいいの?」  
水「男と男だから!」  
太田和「絵がキレイだし、美少年同士がカラミでると、あー素敵だわーみたいな」  
パ「まさか、アンタたち、これをオナニーで済ませてんじゃないでしようね!」  
一同「してないしてない(爆笑)」  
水「僕の目から見ると、こういう物語って『ロミオとジュリエット』みたいな感

じで、社会からの反対とかいっぱいあってそれを乗り越える。みたいなのがいいんじゃないの? 今はあんまり恋愛に障害がないから、ゲイっていうのを盛り上げに利用してるんじゃないの? 親から反対されてみたいいなことをさあ」  
藤田「うーん、私は『ロミオとジュリエット』は嫌いだけどな」  
太「でも、禁じられた愛だから眺めたっていう感覚はあるかもしれないね」  
水「別にゲイだからって隠れることはないと思うけど。人の趣味なんてそれぞれなんだし。こういうのもあるのだから社会勉強ですよ」  
パ「こういうマンガばかり先に見ちゃうと、本物のゲイを見たときにちゃんとした判断ができなくなるんじゃないの? ゲイってもしかたないハズと思ったり」  
森川「マンガは美化しすぎでしょ! 少女マンガの話が実際にあるわけじゃないの

れてたりするわけでしょう?」  
パ「僕がわかってほしいのは、ゲイの世界と他の世界とは、全く変わらないってことなの。僕が経験してきた全ての恋愛は、相手がたまたま男なだけであって、それ以外は男女の恋愛と何も変わらない」  
水「そんなにたくさん付き合ったの?」  
パ「んー、もう数え切れないな。だって見つめ合って、手を握っただけで、僕の場合もうセックスと同じ意味だからね」  
水「えっ、それでイッチャウの?」  
パ「違っつてば!」

今回集まってくださったのは、この「Ovis」(西新社)の読者の方

# COMING OUT

パトリックの  
**カミングアウト大作戦!**

パワフル HIV ポジティブ

77

## ゲイ雑誌を読みあさる。女のコたちにモノ申す!!

ゲイが女のコにモテている。ゲイ雑誌を購読「もてている」という。「なんか勘違いしてる!」とパトは現場に向かった。現場って、どこだった?

今週のカミングアウト

ゲイ雑誌読みあさり女

ゲイ・テイストの入ったドラマや映画、マンガなどがやたらと女のコの間に受けている。一部の「やおい系」では昔からあったが、いまやそれが一般化しつつある。パトの働くクラブの世界でも、ゲイの男のコばかりを好きになって悩む女のコが増しているという。一体どういうことなのか? この謎を解明するため、ゲイ雑誌のヘビーな読者に集まってもらった。藤田知穂さん・20歳・読者歴4年(右上)、太田和綾子さん・20歳・読者歴6年(左上)、森川裕香里さん・15歳・読者歴3年(右下)、水口雪絵さん・15歳・読者歴2年(左下)の4名だ。



「長期未発症者」は世界的な関心を集め、各国で様々な研究結果が発表されている。HIV感染が「単なる慢性病」になる日は近いのか……

岡「関係者をいろいろ調べたら、持っている人は極めて少なかった。でも、HIVに感染しているながら12年以上生存している血友病患者7人を調べたら、全員がこの抗体を多量に持っていたんだよ。逆に5、6年前に感染し、発病した患者は誰も持っていなかった」

パ「ということはIgM抗体を持っている人は感染しても発病しない？」

岡「絶対に発病しないとは言えないけれど、感染細胞の増殖を抑えることができるので、発病が遅れるという可能性は高い。これで10年、20年と生きられるなら、その間にまた新たな治療法が発見されるだろうしね」

パ「それじゃ抗体がない人は？」

岡「だから、持っている人から抗体を集めて治療に使えるってない人に対しては有効な治療薬になるんじゃないかという研究をしているところなんだよ」

パ「なるほど。この治療法が国に認められて、実際にボクたちが受けられ

ら知らなかったほうがよかった、なんて思うかもしれないじゃない？」

今日血液検査でパトリックの血液にIgM抗体が発見されれば、発病は遅れる可能性が高くなる。でも、もしなかったら……。パトの気持ちを考えると、SPAも、つい押し黙ってしまふ。

名古屋の街は、十数年ぶりという前日の大雪が、あちこちに残っていた。

**発病を遅らせれば、また次の可能性を待てる**

研究室を訪ねてみると、なぜか岡田教授の態度が冷たかった。参考のためにSPAが送った過去の連載記事を見て岡田教授は、パトリックが「どうせ治らないうんたら、あきらめて好き勝手にやってよう」という人間だと誤解してしまっただけだ。

岡「そうだね。200ccを月に2回くらい注射するってペースを考えている」

パ「すごく現実味があるところまで話が来てるなあ。ところで先生はどうしてエイズの研究を始めたんですか？」

岡「うぬぼれが強いから(笑)。他の人ができないって言うっていると、じゃあオレならできるかもしれないって思っちゃうんだ。まあ、研究者っていうのはみんなバクチ打ちみたいなんなんだよ。自分だけは成功するつもりでやってるんだ」

それから岡田教授は、少し照れながら研究室に飾ってあった額を見せてくれた。それは教授の新聞記事を読んだHIVボランティアの若い女性が大学へと送ってきた応援の手紙だった。「先生の研究に期待しています。がんばってください」と可愛い便箋に書かれていた。

岡「こうして待っていてくれる人がいると思つて、研究してるんだよ」

そしてパトリックの血液にIgM抗体が含まれているか否かの検査が行われた。まずは岡田教授自らパトリックに注射器2本分の採血をする。

岡「実はセックス感染の患者はこれまで

**パトちゃん日記**

2月13日

中学校生徒の前でAIDSの話をしたことはあったけど、小学校は初めて行った。千葉の小学校5、6年生200人と父兄がだーって並んで座って、さすがのパトちゃんもかなり緊張。日常の仕事で12歳くらいの友達がいるわけないし、自分はこの年の子供がいてもおかしくないわけじゃん。並んでる先生たちは僕より若い人もいっぱいいるし、パトの心の支えは何？」って聞かれて、「支え」って日本語知らなくてあせっちゃったよ。

小学生に囲まれると自分の年を感じるよ

パトリックDJ情報●毎週月曜LOOP on 246 3/8(金)THE WORLD at PLANET

パトリックへのメッセージのあて先●105-70 (株)扶桑社 選刊SPA編集部「パトリック係」まで

今年1月、新聞に「エイズ感染細胞を殺す抗体」が発見されたという記事が掲載された。エイズの記事には常にチェックを怠らないパトリックは、もちろんこの記事も読んでいた。

その抗体は、免疫グロブリンM(IgM)と呼ばれるもので、HIVに感染したリンパ球のみを壊してしまうという。



朝日新聞'96年1月4日朝刊より

つまり、このIgM抗体が体内にあれば、HIVに感染しても免疫の働きが保たれて、長期間エイズを発病しないということが考えられるのだ。

自分もIgM抗体を持っているのだろうか？ そう思ったパトリックは、いともたつてもいられなくなり、IgM抗体を発見した名古屋市の岡田秀親教授にコンタクトをとった。

名古屋駅から名古屋市立大学へ向かうタクシーの中で、パトリックはいつになく複雑な表情をしていた。

パトリック「だつてすごく怖いんだよ。HIVの検査が最初のドアだとすると、それを開けて中に入って以来、終わりのない廊下で、ずっと治療法というドアを開け続けている気分なんだ。いつも今度こそって思いながらね。今度のドアも開けるのが怖い。もしかしたら、最初か

ら知らなかったほうがよかった、なんて思うかもしれないじゃない？」

今日血液検査でパトリックの血液にIgM抗体が発見されれば、発病は遅れる可能性が高くなる。でも、もしなかったら……。パトの気持ちを考えると、SPAも、つい押し黙ってしまふ。

名古屋の街は、十数年ぶりという前日の大雪が、あちこちに残っていた。

**発病を遅らせれば、また次の可能性を待てる**

研究室を訪ねてみると、なぜか岡田教授の態度が冷たかった。参考のためにSPAが送った過去の連載記事を見て岡田教授は、パトリックが「どうせ治らないうんたら、あきらめて好き勝手にやってよう」という人間だと誤解してしまっただけだ。

「僕はエイズは必ず治せる病気なんだと信じて研究している。だから、そういう態度の人にはムクな時間を使いたくない」

パトとSPAは慌てて、その誤解を解いた。パトがエイズに対してどれだけポジティブに闘っているかを説明した。時間をかけた説明の後、岡田教授はとも親切に抗体について解説してくれた。

パ「そもそも先生が抗体を発見したきっかけは何なんですか？」

岡田「HIVに感染した細胞を培養する実験をしていたら、ある人の血清を使うと必ず培養に失敗することがあった。それでその人の血液を調べていたら、IgMという免疫グロブリンの中にHIV感染細胞を殺してしまう抗体があることを発見したんだ」

パ「その抗体は、その人だけしか持っていないかったの？」

**パトリックの カミングアウト 大作戦!**

パワフル HIV ポジティブ 78

今週の カミングアウト

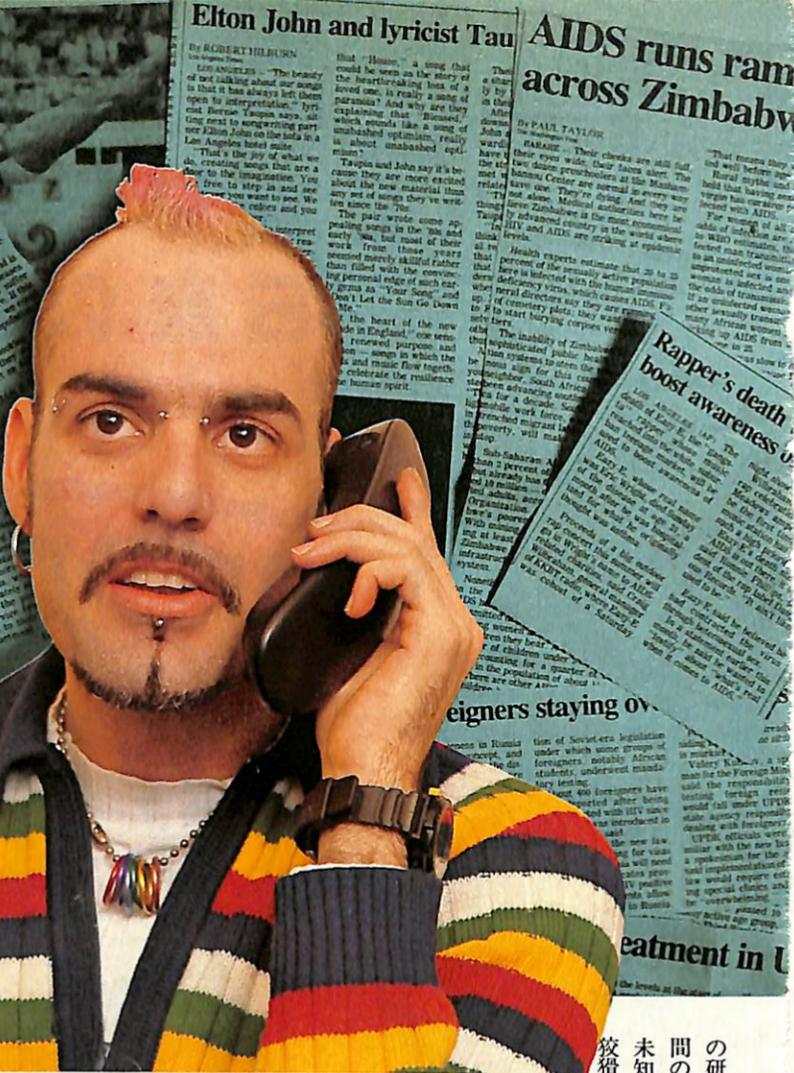
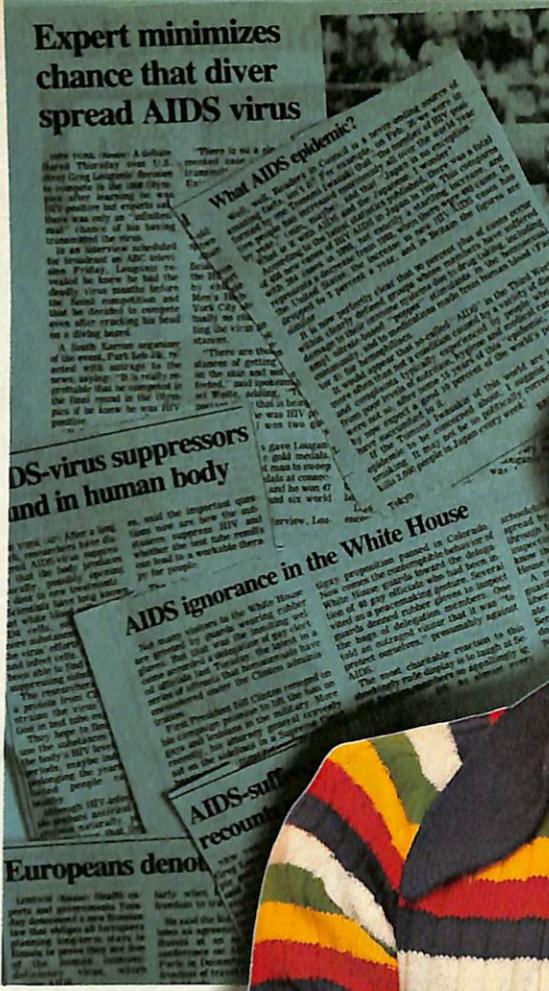


IgM抗体と岡田教授

名古屋市の岡田秀親教授が、日本免疫学会の国際誌「インターナショナル・イミヌロジー」1月号に、HIV長期未発症のカギを握る抗体、IgM抗体の発見を発表した。これはHIVに感染したリンパ球のみを殺す抗体で、長期未発症者の血液から発見されたものだ。この抗体を培養すればエイズの効果的な治療薬になると考えられる。IgM抗体の研究をしている岡田教授は1937年静岡生まれ。国立がんセンター研究所ウイルス活性研究室長などを経て、現在は名古屋市の名古屋大学医学部分子生物学研究所生体高分子部門教授。

**「HIV感染細胞を殺す抗体」の保有検査を受ける**

エイズ治療は新薬の開発結果が次々と発表されているが、決定打は登場していない。そんな中、ある抗体の発見を発表した研究所を訪ねた



**Expert minimizes chance that diver spread AIDS virus**  
**What AIDS epidemic?**  
**DS-virus suppressors and in human body**  
**AIDS ignorance in the White House**  
**AIDS-suff**  
**Europeans deno**

名古屋市立大学の岡田秀親教授の元を訪ねてから1週間が過ぎ、SPAへ先日の検査(パトリックの血液にエイズ感染細胞を殺すIgM抗体が含まれているか)の結果が届いた。

報告書によるとパトリックの「HIV感染細胞溶解活性は47.1%」となっている。ん? これはIgM抗体を持っているということなのか?

数値の意味がよくわからないSPA!は岡田教授に電話して聞いてみた。

岡田教授「これはIgM抗体が90分間にとれだけのHIV感染細胞を殺すかっていう数値なんです。つまりパトリックの血液には90分間に47%のHIV感染細胞を殺す量のIgM抗体があるってこと。僕らは50%あれば多いと判断しているから、パトリックはほぼ多いといえるね」と。

なんと? パトリックはIgM抗体を持ってたのだ!



**待つこと一週間!**  
**抗体保有検査の結果が……**

エイズ長期未発症者が共通して体を持っているという抗体が発見された。パトはその保有検査を受け、結果が出るのを一週間待ったのだ。

**抗体保有検査の結果**

名古屋市立大学の岡田秀親教授が、HIV長期未発症者のカギを握るIgM型の抗体の発見を発表した。これはHIVに感染したリンパ球のみを殺す抗体で、血友病で感染した長期未発症者の血液からも発見されたもの。つまりこの抗体を持っていればエイズ発症は遅れる可能性が高くなるというのだ。このニュースを聞いたパトリックは自分がその抗体を持っているのかどうかを知りたくなり、名古屋へ行き岡田教授に会った。さっそく採血して検査してもらったパト。今までセックスで感染した人は誰も持っていないというが……。

岡田教授はパトリックの血液に抗体という成分が少ないことを指摘。抗体は補体とコンビになって初めて能力を発揮するのだ。従って、今のパトリックのIgM抗体は、まだフル活動しきれていない可能性があるという。

パ「補体って、どうやれば増やせるんですか?」

岡「健康人の新鮮血しよを輸液すれば簡単に増やせると思いますよ」

そして岡田教授とパトリックの主治医の岩室先生が相談して今後の治療法を考えていこうということになった。そしてパトリックも今後、岡田先生の研究に積極的に協力することを約束。研究はサンプル数が多いほどいいのだ。なにしろこ

岡田教授から詳しい結果を聞くパト。様々な情報が毎日発表されるだけに心境は複雑だ

**パトちゃん日記**  
 2月14日  
 朝から浜松に出掛け、東京に戻ったが真夜中。疲れてちょっと熱があったけど、「HIV訴訟座り込み」にはどうしても行きたかった。僕のDJに遊びに来てくれた友達も何人かいるからね。去年の「手をつないで厚生省を囲もう」の時(95年9/13号)に掲載は、正直言って僕がいちやいけなない雰囲気があった。血液製剤でHIVポジティブの人たちに僕のようなSEX感染でHIVポジティブの人が近づいたらいけなない感じを受けたんだ。でも、それか何人かの血友病でポジティブの友達が出てきて、話をしていくうちに僕のモヤモヤしたものは薄くなったと思う。今日もここで初めて会った女のことが僕に「パトちゃん私もHIVポジティブだよ。仲間だね!」って言った。

の研究はまだ試験管レベルであって、人間の生体内でどう機能するかに関しては未知の部分が多い。またHIVは非常に狡猾なウイルスで、時間が経つと耐性ウイルスが現れてしまうため、効果の正確な判断には長い時間を要する。

SPA「まあ、パトリックが発病しにくいってことがわかっただけでも嬉しいよね。最近、体調があまりよくなって弱気になっただけじゃない?」

パ「岡田先生は「はっきりとは言えないけど感染して10年くらいは大丈夫」って言ってくれた

朝から浜松に出掛け、東京に戻ったが真夜中。疲れてちょっと熱があったけど、「HIV訴訟座り込み」にはどうしても行きたかった。僕のDJに遊びに来てくれた友達も何人かいるからね。去年の「手をつないで厚生省を囲もう」の時(95年9/13号)に掲載は、正直言って僕がいちやいけなない雰囲気があった。血液製剤でHIVポジティブの人たちに僕のようなSEX感染でHIVポジティブの人が近づいたらいけなない感じを受けたんだ。でも、それか何人かの血友病でポジティブの友達が出てきて、話をしていくうちに僕のモヤモヤしたものは薄くなったと思う。今日もここで初めて会った女のことが僕に「パトちゃん私もHIVポジティブだよ。仲間だね!」って言った。



厚生省の座り込みの現場にこの黒柳瞳子さんも来て、舞い上がってしまった僕



# パトリックの カミングアウト 大作戦!

今週の  
カミング  
アウト



彼女は  
鈴木美穂

1981年1月31日、東京生まれ。家族構成は建設系労働組合職員の父、養護学校教師の母、そして弟がひとりの4人家族。94年12月12日より区立の中学校へ自主的に「行くのをやめる」。以後、ほとんど登校せずに卒業を迎えた。エイズについて考える小学生～高校生のグループ「ジョナサンの会」の副会長としても活動。身近な社会問題に興味があり、将来はドッグトレーナーなど、人を助ける仕事に就きたいそう。なお、学校に行かない彼女だが、朝は毎日きちんと7時半に起床している。これはお母さんの厳命なのだとか。

## 不登校の中学生が 卒業を拒否する理由

イジメによって自殺する中学生のニュースが後を絶たないことに、同じイジメられた子出身のパトリックは胸を痛めている。「殺される」までに追い詰められながらも、なぜ彼らは学校に行き続けたのだろうか。そんなに学校とは行かなくてはいけないところなんだろうか？

HIVに感染しているアメリカの少年、ジョナサン・スエイを日本に呼んで話を聞こうということが発足した「ジョナサンの会」という少年少女のボランティア・グループがある。その集いの講演に招かれたパトはひとりの少女と出会った。本来なら中学3年生だという彼女は、1年前に自分の意志で中学校に行くことをやめたのだという。興味を持ったパトリックはさっそく彼女、鈴木美穂ちゃんに話を聞いた。折しも彼女が中学を卒業できるかを決定する会議の前日だった。パトリック「美穂ちゃん、いつから中



以前通っていた中学校の前にて。学校に行かなくなってからも時々友達と会って話をするという。撮影中に「担任だった先生と会い、「卒業はどうするつもりか」を問いただされた

学校に行かなくなったの？」美穂「一昨年の12月。2年の2学期の終わりぐらい」

パ「それから全然行ってないの？」  
美穂「たまに行くこともあるよ。このあいだ行ったら机がなかったけど(笑い)」  
パ「中学校に行かなくなった理由は何かの？ やっぱイジメ？」  
美穂「うーん、浮いてたとは思って、みんな同じにさせられるでしょ。学校って、みんな同じやいけないとか。そういうのがずっとイヤで、中学校に入学した時からおかしいと思ってた」  
パ「あ、わかった。スカートはくのがイヤだったんでしょ」  
美穂「そう(笑い)」  
美穂ちゃんは髪を思いきり刈り込んでいて、ぼつと見には男の子みたいに見える。ファッションも男の子風だ。

いきとかいつてうるさいらしいんだ」  
パ「一回離れてみて、話してみて初めて先生たちのことがわかったんだね」  
美穂「でも、学校のシステム自体が変わるわけじゃないから戻らないけど」  
パ「後悔してない？ 日本は学歴がないと大変なんだよ。例えばボクは大学卒業してないから英語の先生にはなれないんだ。まあ、なる気はないけどさ(笑い)」  
美穂「後悔はしてない。他人より早く社会に出たと思ってるから。学校行かなくなつてからのほうがいろんな人に会えるようになって、楽しいし勉強になるよ」  
美穂ちゃんと話していると、学校なんて行かなくても大したことじゃないような気がなってくる。たとえそれが義務教育であろうとも。  
翌日の美穂ちゃんが中学校を卒業できるかを決める会議では、彼女自身が「卒業する」と言えば卒業させてくれるというのだが、返事を先延ばしにしていた。パ「で、卒業はどうするの？ 明日までに決めなきゃいけないでしょ？」  
美穂「うーん、卒業証明書って『3年間の課程を修了したことを証明する』って書いてあるんだよ。私、修了してないのにもうのってウソだよ」  
パ「さっきボクが言ったみたいに、後で中学を卒業してないってことがハンデイになるかもしれないよ」  
美穂「そういう時が来たら中卒認定試験を受けて、ちゃんと中卒の資格とればいいんじゃないかなあ」  
パ「とりあえず証明書もらつといて、後で改めて試験受けるって手もあるよね」  
だが、一度卒業してしまうと中卒認定

### パトちゃん日記

3月1日

頭をモヒカンにしたら、セサミストリートの「パト君」と呼ばれて今日この頃。ならば期待に添えることにした。わざわざ竹下通りの古着屋まで行って「パト君」のセーターを買い、アーニー君も準備した。このスタイルでDJをしている。ところで「パト」と「アーニー」の生活や会話はどう見てもHAPPYなゲイ夫婦には見えな気がする。パトちゃんだけかな？ いやあ僕のアーニー君は一体どこにいるの？

僕のDJを見守る生身のアーニー君(真ん中)

パトリックDJ情報●毎週月曜LOOP on 246●3/23(土)WORLD CONNECTION at YELLOW

パトリックへのメッセージのあて先●015-70 (株)扶桑社 週刊SPA!編集部「パトリック係」まで

「私は『3年間の課程を修了』してない。でも後悔もしてない」